

環境省エネルギー特別会計補助事業

平成二十年度 都道府県地球温暖化防止活動推進センター普及啓発・広報事業

環境コンサート、地方自治体主催イベントを活用した草の根的普及啓発・広報の実施
活動報告書

平成 20 年度 3 月

財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
(ストップ温暖化センターみやぎ)

1. 事業の目的

| | |
|-------|---|
| 事業の目的 | <p>京都議定書の目標に向けて、地方公共団体・市民が一体となり、温暖化防止対策に取り組むことが重要である。</p> <p>本事業では、MELON・ストップ温暖化センターみやぎが、宮城県内の自治体（10自治体程度）及び地球温暖化防止活動推進員と協力し、町民祭り等のイベント機会および市民講座の開催を通じて、家庭の省エネの普及啓発により地域での取り組みを効果的に推進する。また、温暖化防止コンサート等を開催することで、環境に関心のない層にも環境問題を訴えかける。</p> |
| 事業の内容 | <p>(1) 地域イベント出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 推進員、地方行政と連携して各地で行われている環境フェアや産業祭りにブース出展を行い温暖化防止につながるライフスタイルの啓発や電球比較装置を使ったデモンストレーションを行うことにより、省エネ型ランプの買い替え促進に努める。 <p>(2) 温暖化防止教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数多くの学校へ出前講座を行うことにより子供の時期から温暖化問題を認識させる。また出前講座大型版を外部講師を招いて3回程行う。 <p>(3) 温暖化防止バスツアー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内外の先進的事例を学びノウハウを宮城県へ持ち帰る。またそこで学んだ事を低炭素社会の実現に向けた足がかりとする。 <p>(4) 温暖化防止市民講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方行政、推進員と連携して環境フェアとリンクした市民講座を開催する。 <p>(5) 温暖化防止コンサート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段、温暖化問題にも関心が無い層にも音楽を通じて啓発を行い、幅広く温暖化防止につながる新しいライフスタイルについて実践するきっかけとする。 |
| 事業の効果 | <p>(1) 地域イベント出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来のシンポジウム形式の普及啓発・広報は環境に関心のある人しか集まらないが、町民祭りなどのイベントは関心のない層にも広報できる。 <p>(2) 温暖化防止教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内小中学校にて温暖化防止講座を開催することにより、子供の内から温暖化問題を認識させる。 <p>(3) 温暖化防止バスツアー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内外の温暖化防止につながる先進事例を学び宮城県内に広く紹介し低炭素社会を考えるきっかけとする。 <p>(4) 温暖化市民講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 温暖化防止講座を開催することにより、最新の情報を一般に広報する。 <p>(5) 温暖化防止コンサート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 温暖化防止コンサートを開催することにより、温暖化問題に関心が無い層にも広く広報できる。 <p>「各事業毎の効果をセンターのホームページで公表する」</p> |

2. 地域イベントへの参加実績

県内 10 箇所で地域イベントを実施した。センター主体、推進員が独自に行ったものがあるが、いずれも展示物等で連携をとっている。(学習会や講演会は含まれていない)

2008 年度地域イベント一覧

| 番号 | 日にち | イベント名、自治体名(主催者名) 開催場所 | 内容 | 参加者 |
|----|------------------|---|-------------------|--|
| 1 | 2008 年 7/6(土) | エコフェスタ 【気仙沼市】 気仙沼市総合市民福祉センター | | 菊地ひろ子推進員 千葉清幸推進員 |
| 2 | 7/17(木) | 地球温暖化と私達にできること 【青年会議所】 メディアテーク | グッズ展示 | 伊藤行雄推進員 大友浩一推進員 郷古正樹推進員 |
| 3 | 7/27(日) | レイクフェスタin 釜房 2008 【川崎町】 みちの 社の湖畔公園 | マイうちわペイント | 井上センター統括 廣重事務局員 江刺家事務局員 市川裕貴氏 |
| 4 | 8/13(水) | 仏式キャンドルナイト 【長泉寺】 角田市長泉寺 | 仏式キャンドルナイト | 井上センター統括 廣重事務局員 江刺家事務局員 |
| 5 | 8/21(木) | 東北温暖化フォーラム 【EPO東北】 メディアテーク | グッズ展示 | 伊東行雄推進員 大友浩一推進員 郷古正樹推進員 |
| 6 | 8/30(土) | 環境フェア 【巨理町】 巨理町中央公民館 | パンフレット提供 | なし |
| 7 | 10/11 (土) | 大崎市環境フェア 【大崎市】 大崎生涯学習センター | マイバッグペイント | 廣重事務局員 江刺家事務局員 市川裕貴氏 |
| 8 | 10/25 (土) | 小野田秋まつり 【加美町】 小野田文化会館 | グッズ展示、紙すき | 井上センター統括 廣重事務局員 江刺家事務局員 |
| 9 | 11/2(日) | ダメだっちゃ温暖化県民会議 【宮城県】 | グッズ展示 | 小林統括 井上センター統括 |
| 10 | 11/3(祝) | ふるさと名取秋まつり 【名取市】 | 環境クイズ | 井上センター統括 成瀬事務局員 |
| 11 | 11/9(日) | りふ環境まるごとフェア 【利府町】 利府町民交流館 町民広場 | 共催、グッズ貸出 | 廣重事務局員 江刺家事務局員 菊地敏子推進員 大友浩一推進員 郷古正樹推進員 高橋實推進員 |
| 12 | 12/1(月) | Date fm 開局 26 周年記念 Forever Green Concert 【Date fm】Zepp Sendai | グッズ展示、パネル 貸し出し | なし |

| | | | | |
|----|-----------------|---|-------------------|--|
| 13 | 2009年 2/8(日) | 東北こんそコラボサミット「地域づくり博覧会」【東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会】 メディアテーク | パネル展示 | 井上センター統括 |
| 14 | 2/14(土) | 柴田町環境広場「もったいない」の集い【柴田町、柴田町「もったいない運動」町民会議】 槻木生涯学習センター | グッズ貸出 | なし |
| 15 | 2/28(土) | 角田市環境フォーラム【角田市】 角田市市民センター大ホール | 講師交通費負担、 グッズ貸出 | 井上センター統括 廣重事務局員 江刺家事務局員 山崎義幸推進員 |

3. 地域イベントでの主な取り組み

08年度は、総計約1500名のイベント来場者に普及啓発活動を行った。

昨年度に引き続きマイバッグ・マイうちわペイントのように参加型の啓発活動を中心に行った。楽しみながら参加している様子が伺え、集客度・満足度共に依然として高いものであると思う。これらの体験型イベントの特徴として、まず子どもが関心を持ち、それに伴って親がついてくるということがあげられる。そこで、両企画で小冊子を作成し、参加者に配布した。装丁、内容共に母親を対象とし、気軽に家に帰ってからも見ることができるよう心がけた。子どもがバッグやうちわを作成するのを待つ間に手に取る姿も見られ、一般の人にとって入りやすい情報提供源として成果をあげることができたと思われる。

その一方で、マイバッグが一般に浸透してきていることや市販の買い物用バッグが増えていることなどから、「もう持っている」との声が聞かれたのも事実である。特に仙台市でのイベントや昨年度と同じイベントでの開催時において数人から聞かれた。これらの現状を踏まえ、マイバッグに次ぐ参加型の啓発形態を探ることが急務であると思われる。

また、推進員や他団体、自治体と連携し、グッズ貸し出しやパンフレットの提供による協力も行った。推進員の活動の活発化ならびに外部との連携も一層の強まりを見せており、次年度も積極的に行っていきたい。

10/25 小野田秋祭りでは、「家に帰って実行してみたいこと」と題して省エネ行動の一覧表を作成し、参加者にシールを貼ってもらった。省エネとは具体的にどんな行動が提示すると共に、参加者の意思表示の場となり、さらに普及啓発の効果を測るものとして来年度も活用したい。

11/3 ふるさと名取秋祭りでは、初めての試みとしてクイズを行い、予想以上の反響を得た。パネル展示などの一方的な情報提供とは異なり、参加者自身が考えることにより情報が定着しやすいという効果があり、またスタッフにヒントを求めるなど対話や情報の補足としての糸口ともなりえる手法である。さらに環境配慮型の品物を景品とすることにより(今回は名取市より提供されたせっけん)参加意欲が高まり、満足度も高いことが伺えた。

以上の取り組みの他、各イベントにおいて電球比較装置を用いて省エネ型電球への買い

替え（CO₂ 排出削減量約 34.4kg）を促進する展示を行なったことで、約 51.6t（1500 名×34.4kg=51,600kg）の CO₂ 排出削減を見込むことができた。

4. プログラムの反省と改善案

実施したプログラムと役立つ機材・展示の工夫

普及啓発ツール

エネルギーバッグ

エネルギーバッグは、我々が一日に使用しているエネルギー量を体感してもらうためのツールである。3種類の重さのバッグがあり、それぞれ、アメリカ、日本、中国の国民1人当たりの1日に使用するエネルギーの量を石油換算したものである。それを参加者に実際に持ってもらい、それがどこの国のエネルギー量を当ててもらおう。また、エネルギーバッグで示された1日分のエネルギーがどこで使われているのか考えるためのカードや、エネルギーに関するクイズを合わせて実行することで、我々が使用しているエネルギー量について意識させる。ただ、エネルギーバッグはサイズが大きく、重いものも含まれているので小さな子供には実感がしづらく、また持ち運びに時間がかかるのが難点。主に中学生の環境学習の場や地域イベントで使用している。

電球比較実験器

省エネタイプの電球と従来の電球を実際に点灯させ、電気使用量、使用料金、明るさ、温度を比較するためのツールである。各データが一目で比較できるので、電気量を意識させることができる。長時間点灯しすぎると、熱がたまり電球の正確な温度差が目視しづらいのが難点。主に地域イベントで使用している。

手回し発電機

省エネタイプの電球と従来の電球にそれぞれ手回し発電機を繋ぎ、発電時の労力の違いを体感する。電球の切り替えが容易であるので労力を実感しやすい。ただ、手回し発電機は子供の力ではなかなか発電せず、子供には実感しづらいのが難点。主に地域イベントで使用している。

光電池学習セット

太陽光がエネルギーに変わることをソーラーカーなどの装置を使用して体感することで、自然エネルギーに対する興味、理解を深める。遊び感覚で体感できるので、特に子供を対象とした環境教育に有効と思われる。

未来は変えられる

これまでに現れている温暖化の影響と将来起こると予想されている影響について知る事で、温暖化について自分にも関係する問題であることを感じると共に温暖化防止のために出来ることは何かを考えるプログラムである。参加者の年齢と影響が起こる年を対応させながら進めるため、温暖化の深刻さをイメージしやすい。スペースが必要なことと対策を考える時間を含め、やや時間がかかる（30分以上）ことから、環境学習での使用のほうが効果的であると思われる。



エネルギーバッグ



電球比較実験器



手回し発電機

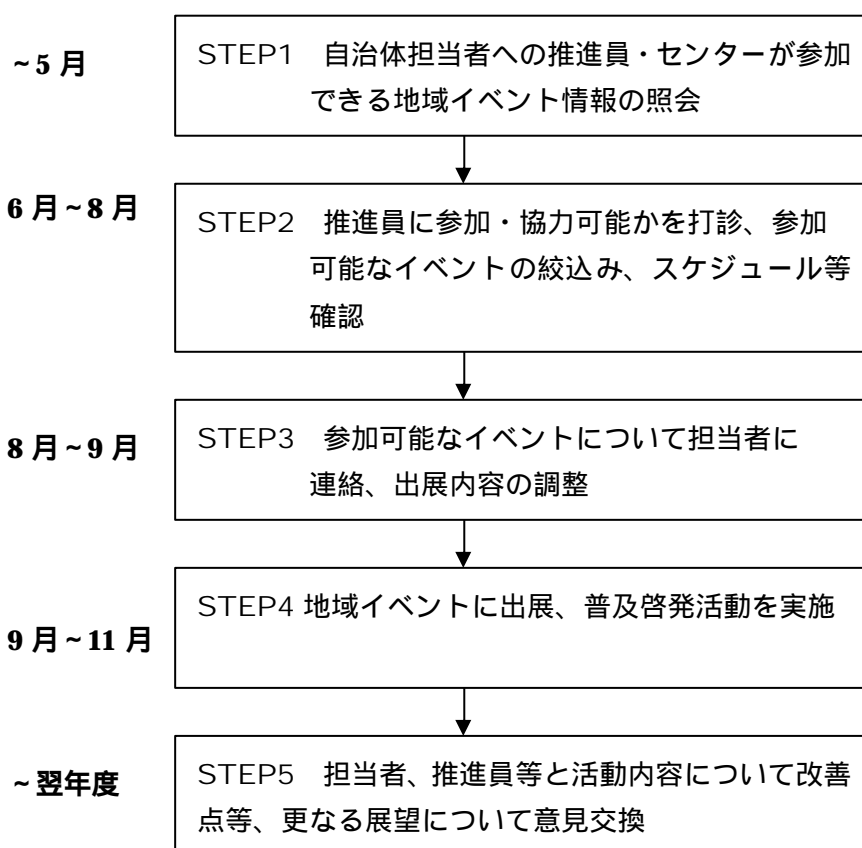


光電池学習セット



未来は変えられる

5. 活動の進め方フローチャート（実施マニュアル）



春から夏にかけて行なうイベントについては前年度または年度の早い時期に調整が必要
 上記はセンターが中心となって実施する場合を想定しているが、実際には自治体の担当者
 とコネクションを持つ推進員が独自に交渉して普及啓発の場をセッティングしたケース
 も幾つかあった。

6. 温暖化防止教育

2008 年度温暖化防止教育受け入れ一覧

印のあるものは、講師交通費及び謝礼を普及啓発広報事業の予算から計上した。

| 番号 | 日付 | 主催 対応先 | 内容 | 対象 | 対応者 | 備考 |
|----|--------------|------------------|----------------------------------|---------------------------|----------------------------------|---------------|
| 1 | 2008 5/12 | 川平小学校 | ごみについての学習 | 4 学年 96 名 | 菅谷匡推進員 | |
| 2 | 5/15 | 山形市第七中学校 | 地球温暖化について | 2 学年 14 名 | 萩野寛推進員 | 60 分 |
| 3 | 6/7 | 松山青少年交流館 | 温暖化について | 一般約 100 名 | 千葉智恵推進員 | 90 分 |
| 4 | 6/14 | 橋本総業 (株) 東北支店 | 省エネルギーの実践 | 一般 90 名 | 千葉智恵推進員 | 30 分 × 3 回 |
| 5 | 6/17 | みやぎ生協柏木委員会 | 地球温暖化について | 一般 20 名 | 井上センター 統括 | |
| 6 | 7/1 | 寺岡小学校 | 温暖化について | 4 学年 138 名 | 菅谷匡推進員 | 95 分 |
| 7 | 7/11 | 北六番町小学校 | 「未来は変えられる」 | 6 学年 48 名 | 井上センター 統括、 廣重事務局員、 江刺家事務局員 | 60 分 |
| 8 | 7/12 | 尚絅大学 | 環境に関する仕事 | 大学生、一般 計 60 名 | 小幡秀樹推進員 | 150 分 |
| 9 | 7/14 | 逢隈中学校 | 環境と人の関わりについて | 1 学年 98 名 | 手塚祐二推進員 | 40 分 |
| 10 | 7/15 | 本吉町立大谷中学校 | 地球温暖化の仕組み やメカニズム、身近な 環境問題 | 全校生徒 125 名 | 気象予報士 斎藤恭紀氏 | 60 分 |
| 11 | 7/16 | 美里公民館 | 地球温暖化とは？ | 一般 17 名 | 江刺家事務局員 | 90 分 |
| 12 | 7/18 | 仙台市東部市民センター | 暮らしの中のエコ | 中高年の女性 20 名 | 菊地敏子推進員 | 120 分 |
| 13 | 7/24 | 八本松市民センター | 温暖化関連の講演 | 80 名 | 井上センター 統括 | 90 分 |
| 14 | 8/7 | 南三陸町入谷中学校 | 地球温暖化の現状と 防止活動、今後の地 球環境 | 3 学年 5 名 | 廣重事務局員、 成瀬事務局員、 江刺家事務局員 | 120 分 |
| 15 | 8/8 | 宮城県農業共済組合連 合会 | 地球温暖化につい て、地域的に取り組ん でいる事例 | 20 ~ 35 歳 一般 40 ~ 50 名 | 菅谷匡推進員 | 90 分 |
| 16 | 8/17 | 登米市立浅水小学校 PTA | 地球温暖化ってな に？ | 小学生、保護者、 教師 計約 100 名 | 気象予報士 斎藤恭紀氏 | 120 分 |
| 17 | 9/10 | 加茂市民センター | 地球温暖化につい て、エネルギーにつ いての体験学習 | 一般 40 名 | 井上センター 統括 | 120 分 |
| 18 | 9/16 | 北六番丁小学校 | 温暖化防止活動の発 表会 | 6 学年 45 名の発 表を聞く | 井上センター 統括 廣重事務局員 | 45 分 |

| | | | | | | |
|----|-------------|--------------|-----------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------|--------------|
| 19 | 9/18 | 北六番丁小学校 | 温暖化防止活動の発表会(授業参観) | 6 学年 45 名の発表を聞く | 廣重事務局員 成瀬事務局員 江刺家事務局員 | 45 分 |
| 20 | 9/26 | 丸森町公衆衛生組合連合会 | 私たちに出来る省エネ | 公衆衛生組合員、婦人会員他100~150名 | 今野勇推進員 | 90 分 |
| 21 | 10/21 | 長町南小学校 | 地球温暖化について | 小学5年生、保護者 合計約150名 | 菅谷匡推進員 | 未定 |
| 22 | 10/21 | 小松島小学校 | 地球温暖化の原因、影響、対策について | 5 学年82名、保護者 | 気象予報士 佐藤正則氏 | 90 分 |
| 23 | 10/28 | なとり農と自然のがっこう | ESD,水、田んぼについて | 小学校 5 学年 約100名 | 手塚祐次推進員 | 30 分 |
| 24 | 11/7 | 名取市立みどり台中学校 | 温暖化の現状と対策、名取市の温暖化の現状と対策など(出前講座) | 1 学年 12 名 | 手塚祐次推進員 | 120 分 |
| 25 | 11/7 | 名取市立みどり台中学校 | 温暖化の現状と対策、名取市の温暖化の現状と対策など(センター来訪) | 1 学年 12 名 | 江刺家事務局員 | 120 分 |
| 26 | 11/18 | 多賀城市立東豊中学校 | 温暖化と世界の現状 | 全校生徒283名、多賀城市立東小学校5・6学年210名 | 遠藤秀一氏(NPO 法人 Tuvalu Overview 代表理事) | 60 分 |
| 27 | 11/27 | 仙台市立台原小学校 | 温暖化に関して | 5 学年 110 名、保護者40名、教師3名 | 推進員「Earth 工房」グループ | 90 分 |
| 28 | 12/4 | 名取市相互台公民館 | 身近な温暖化対策 | 一般 25 名 | 今野勇推進員 | 90 分 |
| 29 | 12/17 | 仙台市立旭ヶ丘小学校 | 温暖化について | 5 学年 14 名 | 江刺家事務局員 | 60 分 |
| 30 | 1/22 | 仙台市立荒浜小学校 | 温暖化について | 4 学年 24 名 | 推進員「みどりむし」グループ、廣重事務局員 | 95 分 |
| 31 | 1/22 | 仙台市立柊江小学校 | 「こどもうちエコ応援団」企画講演 | 4,5 学年 90 名 | 小幡秀樹運営委員 | 東北放送 とコラボ |
| 32 | 1/29 3/2 | 亘理町立長瀬小学校 | 未来は変えられる。ストップ温暖化すごろく | 6 学年 34 名 | 江刺家由美子事務局員 | 80 分 ×2 回 |
| 33 | 2/2 | 生協環境研究会 | 環境学習教材実演 | 研究会メンバー | 井上センター 統括 江刺家事務局員 | 30 分程度 |

合計 2425 名に環境教育を行った。授業で冷暖房の設定温度の変更(CO2 削減量約 33kg)、レジ袋削減(CO2 削減量約 58kg)、テレビの使用時間を 1 時間短縮すること(CO2 削減量約 14kg)について説明し、実践を促したことで、約 254.6t の CO2 削減効果を見込むことができた(2425 名 × (33+58+14) kg = 254,625kg)。

7. 出前講座大型版

(1) 南三陸町立大谷中学校 気象予報士齋藤恭紀氏講演

日時：7/15(火) 14:30~15:30

場所：本吉町立大谷中学校 多目的ホール

講師：気象予報士 齋藤恭紀氏

対象：全学年 125 名

概要：今回の講演会は普及啓発広報事業の一環として気象予報士の齋藤氏を招き大谷中学校にて全校生対象に行った。講演の主な内容は天気に関するクイズ（梅雨、怪雨、雨粒など）を切り口とし、講演の後半で温暖化について重点的に話をしていた。聞きやすい語り口で 100 名以上の生徒達も引き込まれて聞いていた。間の取り方や重要なところは繰り返す点など参考にしたいと思う。

大谷中学校では 1 学年が「松枯れ」、2 学年が「磯焼け」、3 学年が「磯焼け」と系統的に環境学習を行なっているとのことで、齋藤氏の質問にも積極的に答え、関心の高さが伺えた。校長先生も環境への取り組みには熱心な様子で、自校の環境学習について誇りを持っているようである。



齋藤氏のクイズに答える生徒



気象と温暖化について説明

（２）登米市立浅水小学校 気象予報士齋藤恭紀氏講演

日時：8/17（日）

場所：登米市立浅水小学校

講師：気象予報士 齋藤恭紀氏

対象：全学年 55 名、保護者 40 名、教師 5 名 計 100 名

内容：今回の講演は普及啓発広報事業の一環として行なった。齋藤氏への依頼は今年度 2 回目である。

気象に関するクイズを交えての講演で、児童だけではなく、保護者・教師からも好評であった。小学校 1 年生から 6 年生と年齢に幅があったが、どの学年も話に聞き入っていた様子である。温暖化について楽しみながらも真剣に考えていたようだ。今回の依頼は「自分でも何かできるんじゃないかと思うような講演をしてほしい」とのことであり、温暖化の現状について知識を得ると共に、対策について考える機会となったことと思う。



参加者の様子



クイズに答える参加者

(3) 多賀城市立東豊中学校 遠藤秀一氏講演

日時：11/18 (火) 13:30~14:30

場所：多賀城市立東豊中学校 体育館

講師：遠藤秀一氏 (NPO 法人 Tuvalu Overview 代表理事)

対象：東豊中学校全校生徒 283 名、多賀城市立東小学校 5・6 年生 210 名 計 493 名

内容：今回の講演は、普及啓発活動の一環として開催した (講師料 10 万円、交通費センター負担)。

東豊中学校は環境教育にも熱心に取り組んでいるようで、修学旅行で一部の生徒が環境省などを訪れたり、生徒会長が環境問題に取り組むことを公約として当選したりしており、意識の高さが伺えた。教師だけではなく、生徒の自発的な活動も行なわれている。今回の依頼でも、講演を聞くだけではなく、学級会で生徒たちが話し合い、実際にできることを考え、実践することが目標であるとおっしゃっていた。

講演はツバルの写真や動画を提示しながら現状について遠藤氏が話をするという形式で、中学生・小学生共に見入っていた。美しい映像と海外についての話、自分と同世代の子ども達の話など様々な観点から興味を持っていたのではないかと推測する。

今後の展開として、県内の各地で今回のような大規模な講演を行い、多くの子どもに環境について知る機会を与えたいと思う。



質問をする生徒



生徒からの御礼の言葉

(4) 環境省 チームマイナス6%関連企画「こどもエコ！教室」

日 時：2009年1月22日(木) 13:30~15:00

場 所：仙台市立 柊江小学校

対 象：小学4,5年生(90名)

講 師：井手迫義和氏(環境ナビゲーター)

佐藤正則気象予報士(東北放送)

小幡秀樹氏(株ユーメディア)

進 行：和久井麻利アナウンサー(東北放送)

経 緯：TBC 東北放送ほか JNN 系列・民間放送 25 局が共同企画として実施する「こどもうちエコ！教室」、宮城県では東北放送主催にて仙台市立柊江小学校 4,5 年生(90 名)にて開催された。TBC 東北放送より当センターに講師派遣依頼があり授業の一部を小幡運営委員が担当した。(企業の環境活動について)

内 容：メイン講師の井出迫氏の温暖化についての講演を皮切りに気象予報士の佐藤正則氏から宮城県の気象から見た温暖化の話。そして小幡運営委員から宮城県の企業が取り組む環境活動とリサイクル等の説明が行なわれた。印象的だったのは井出迫氏の子供たちを話の中へ引き込むテクニックで、これから講師活動をしていく上で、大きな参考になると考えられる。また小幡運営委員の紙リサイクルと管理されている森の木材をか活用する森林認証制度(FSC)の話は大変興味深く子ども達も聞き入っていた。

総括：この様なメディアのイベントにて直接相談があるという事はセンターとしては非常に価値があることなので今後ともメディアとも連携し有効的な活動を展開したい。



井出迫義和氏



左から小幡氏、佐藤氏、井出迫氏



聴講した児童



取材を受ける児童の様子

8. 地方自治体と連携した環境フェアの実施

利府町環境まるごとフェア

日時：11月9日(日) 9:30~15:00

場所：利府町民交流会館

内容：海野和男氏講演

総括：今回センターは共催として、講師料10万円と講師交通費及び宿泊代を協力した。

当日は肌寒く、他のイベントと重なったこともあってか来場者数は少なかった。

また、スタッフの連携がうまく取れていないようで、段取りでばたばたする場面が見られた。

<海野和男氏講演>

今回のメインイベントであり、ポスターにも大きく写真入りで掲示され、ラジオ(pump up Friday)でも紹介した。来場者は約80名ほどであり、幼稚園くらいの子どもと年配者、海野氏のファンが数名という客層であった。講演内容は非常に好評で、「今までで一番いい講演」という声も聞かれた。それだけに集客数の少なさが惜しまれるところである。推進員からの話によると、チラシを回覧板で回したらどうかという提案が特別な理由が無いにも関わらず断られたとの事であり、次年度はもっと広報に尽力すべきではな

いかと考えられる。



会場の様子

海野和男氏

角田市環境フォーラム

日 時：2月28日（土）13:00~16:00

場 所：角田市市民センター大ホール

来場者：角田市民（50代以上の男女が主）約150名

内 容：遠藤秀一氏講演、推進員山崎義幸氏発表、伝説のスピーチ上演、角田市エコポイント抽選会、ブース出展

センターは遠藤氏交通費支払いと伝説のスピーチに関するナレーション、抽選会補助、ブース出展を担当

総括：

遠藤氏の講演は今回も非常に反応が良く、ツバルの映像の美しさに感嘆の声を漏らす来場者や、温暖化に関する話題の場面では、神妙な面持ちでうなづきながら聞き入っている様子が伺えた。来場者も多く、地域での温暖化防止活動として意義の大きいものであったと思う。

山崎氏の講演では、同じ市内在住の人が環境活動に取り組んでいることから身近に感じられる事、さらに節約された電気代の額、CO2削減量が具体的な数値となって提示されていたので、来場者の関心も高かった。

両者の講演・発表において質問が活発に出ており、来場者の積極的な姿勢が見えた。角田市では市としてレジ袋削減のための取り組みをしており、環境配慮行動の下地も出来ている事から、遠藤氏の話は環境配慮型行動の意義を再認識させ、山崎氏の話ではこれからさらにどんなことに取り組むことが出来るのか提示した点でとてもスムーズな流れになっていた。

また、伝説のスピーチのナレーションでは、セヴァン・カリス・スズキ氏の「自分の生活に責任を持ちましょう」というメッセージを紹介し、遠藤氏・山崎氏の話の内容とも関連があり、来場者にとって聞き入れやすかったのではないかと推測する。

角田市は、自治体・推進員・センターの関係が良好で、連携がスムーズに行われている好

例である。今後、このような関係を持つ地域を増やすよう、尽力したい。



遠藤秀一氏の講演



山崎義幸氏の発表

9. 温暖化防止バスツアー「森と風のがっこう」環境教育体験研修

1. 日 時：8/27・28（水・木）
2. 場 所：森と風のがっこう（岩手県岩手郡葛巻町）
3. 参加者：宮城県推進員森林グループ 10 名、宮城県スタッフ 5 名
青森県推進員 4 名、青森県スタッフ 2 名 計 21 名
4. 参加費：4,000 円（研修費 8000 円のうち、4000 円を自己負担）
5. 内 容：

| 月日 | 時間 | 内容 |
|------|-------------|---|
| 8/27 | 12:00 | 現地着 |
| | 13:00～13:45 | オリエンテーション |
| | 13:45～18:00 | 自然エネルギーでクッキング（ピザ作り、燻製作り） |
| | | 夕仕事（薪割りなど） |
| | | 地球温暖化ゲーム |
| | 18:00～19:00 | 夕食 |
| | 19:30～20:30 | 夜学（吉成信夫代表からの話） |
| | 20:30～ | 交流会 |
| 8/28 | 6:00～6:45 | 起床、掃除 |
| | 6:45～7:45 | 朝仕事（朝食作り、畑仕事など） |
| | 7:45～8:15 | 朝食 |
| | 9:00～12:00 | 子ども向けプログラムの紹介、施設案内、 自然エネルギープログラムについて |
| | 12:00～13:00 | 昼食 |
| | 13:00 | 現地発 |

6. 総括： 環境教育の必要性の再認識

恵まれた自然の中で過ごすことで「環境教育の必要性を感じた」、また、プログラ

ムの様子で紹介では、「子どもの潜在能力のすばらしさ」が印象に残ったようである。これまで子どもを対象に活動を行わなかったのは「逃げていたのではないか」と自問する発言もあり、課題であった森林を舞台とした環境教育プログラムの実施に向けての足がかりともなったようである。

実践に向けての意志

「自分でもやってみよう」「バイオガスシステムを実践したい」とあり、参加者がプログラムに関心を持って取り組んでいたことが伺えた。この意識が個人内で終わらず、推進員として一般の方々に向けられることが期待される。

環境教育プログラムの方法

「循環型環境教育を子どもにわかりやすく伝える」ために、「楽しくやる」「楽しんで帰ってもらう工夫」をすることが必要との発言が多かった。「今までは知識偏重、これからは体験型をやりたい」という発言には、今回の研修で体験して学ぶことの必要性を感じたことが伺われ、研修が有意義なものであったと感じた。また、「(楽しくやるためには)皆の知恵が必要」とのことで、今後グループでの活動に活かして欲しいと思う。

実践に向けての課題

、 、 のような収穫の一方で、宮城県では同施設のような整った施設がないことから、「自分の街でどのようにするか」「未消化」「この場所でなければできない」という意見も聞かれた。この発言からは指導者の視線から研修を受けていたことが伺われるため、プログラムをそのまま転用することは困難であるが、 で得た実感を指導者の視点から応用することを期待する。

6. 事前アンケート

参加者の目的意識を明確にすることと、日頃の悩みを事前に把握することで研修内での解決を図る目的から、事前アンケートを行った。アンケートの内容と回答は以下の通りである。なお、太字で示した部分は、事務局員による考察である。

<事前アンケート>

これまでに実施された森林に関する環境教育について簡単にお教え下さい。

自然の中で :自然観察会、ネイチャーゲーム、森林体験、森の学習室(水の森公園)、竹炭作り、植樹手伝い、薪作り、貸森林で下刈
物づくり 木工クラフト
その他 緑の実験、酸性雨について
単独でしたことはない

森林グループは川崎町に貸し森林を有しているが、これまではそれが一般の人々を対象とした環境教育の場として活用されていない。

今後、森林での環境教育を行なうにあたり、どのような方を対象とお考えですか？

| | | | |
|-----|----|-----|----------------------------|
| ある | 8名 | 80% | 子ども ・ 学生 ・ 一般 ・ その他 () |
| ない | 1名 | 10% | |
| 無記入 | 1名 | 10% | |

森林での環境教育の実施に際して、悩みや疑問はありますか？

ある ・ ない

| | | |
|-------|----|-----|
| 子ども | 9名 | 90% |
| 一般 | 4名 | 40% |
| 企業 | 2名 | 20% |
| 小学生の親 | 1名 | 10% |

「ある」と答えた方は具体的な内容をご記入下さい。

| | |
|-----------|---|
| 指導者の視点から | 対象をどの年代に絞るか？子ども対象に楽しく思っているが具体的に何をどのようにしたら良いか？自然で面白いと感じてもらうには？学校教育と地域の人々の関心を高める取組み |
| 活動の実施に関して | 正式な団体でないと参加者を募るのが難しい、参加者が少ない(特に中高生はゼロ)、機会をどのように作るか |
| 自分のスキル | 里山に対する知識の不足、森林の役割の実行値の情報を勉強したい、(森林での生活を)体験したい |
| その他 | 植林後、育林に参加する人の人数が激減する |
| 無記入 | 2 |

指導者として対象者に楽しい体験をしてもらいたいと思うもののその具体的な方法が分からないこと、実施方法に関する悩みが活動のネックとなっていると思われる。

今回の研修で学びたいことをご記入下さい。

| | |
|----------|--|
| 指導者の視点から | 子どもをひきつける体験方法、温暖化と結びつけた森林をフィールドとした体験、指導例、研修例、子どもと一緒に体験できる環境教育、自然と接する時の安全のための教育 |
| 活動実施に関して | 一般公募の方法、効果的な募集方法 |
| その他 | 青森県との交流で何かヒントを得たい、森林の楽しさを体験したい、葛巻についてもっと知りたい、森林と温暖化の関係について数値で説明できるように自分を磨きたい |



指導者として何を学びたいかが明確になっている参加者が多い一方で、目的としている漠然としていたり、理論的なことについて学びたいと思っている参加者がいる。今回の研修の目的をもっと具体的に（例．指導者としてプログラムの内容や説明の仕方などを学ぶことが目的、など）説明する必要があった。

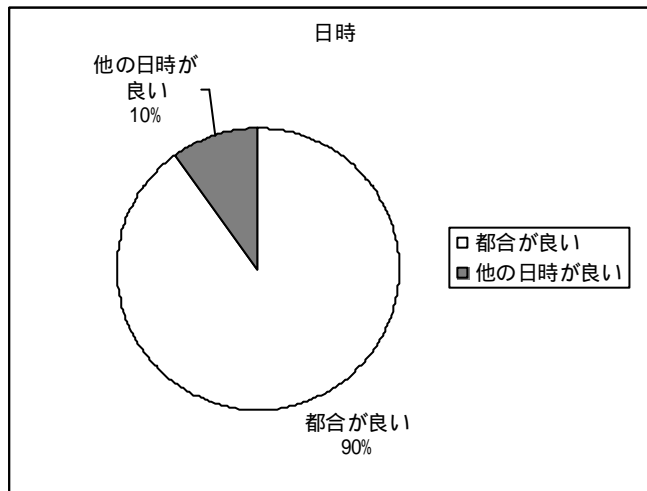
7. 事後アンケート

研修後、今後の企画に当たっての参考とするためアンケートを実施した。質問内容と回答は以下の通りである。

< 事後アンケート結果 >

< 1 > 研修の実施方法について

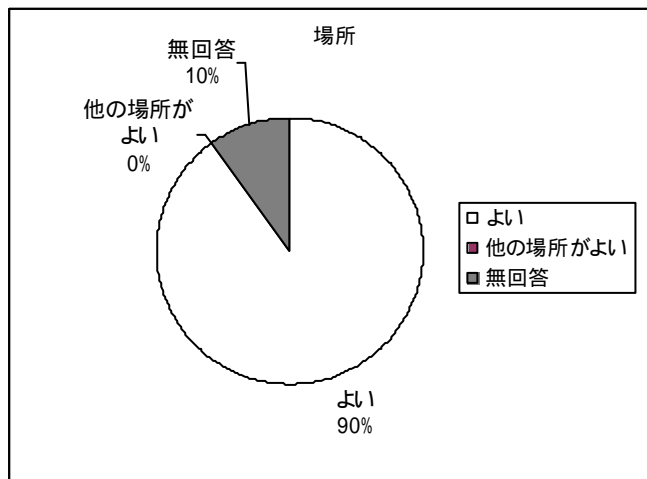
a. 日時



意見 ・ 7～9月

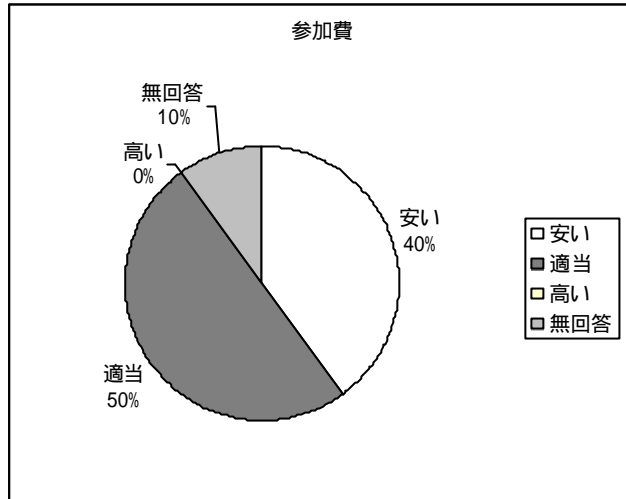
・ 本当は土・日曜日にかけてが良い

b. 場所

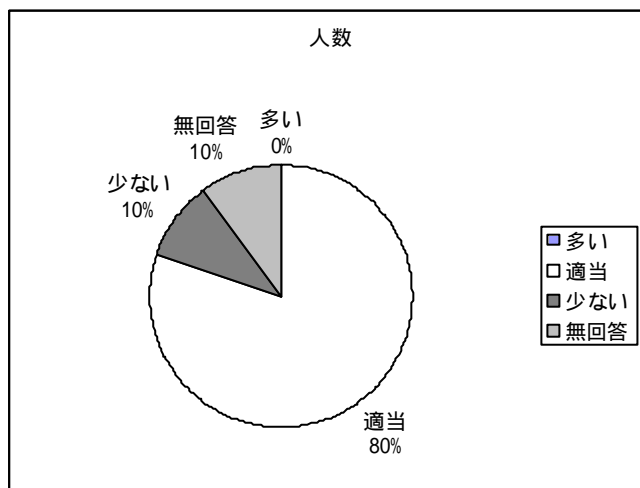


意見・移動距離が短い方がよい

c. 参加費

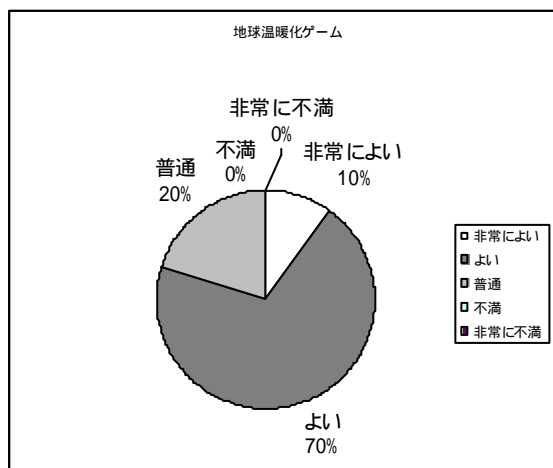


d. 人数



< 2 > 研修内容 5 = 非常によい 4 = よい 3 = 不満 2 = 不満 1 = 非常に不満

a. 地球温暖化体験ゲーム 平均 3.9



理由 <よい>

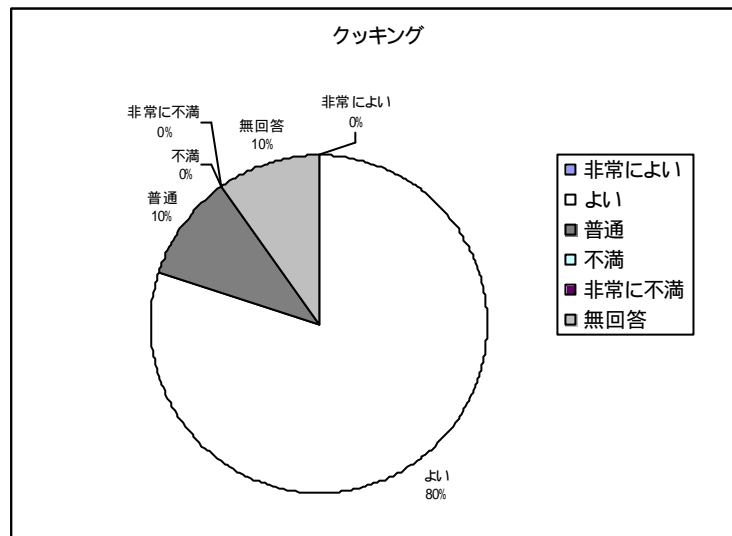
- ・ 子供達に説明しやすい
- ・ 簡単なゲームで温暖化の仕組みを理解できる良い方法と、とても参考になった。

要素を付け加えて取り入れて行きたい。

<普通>

- ・ 小学生向きには良いと思う

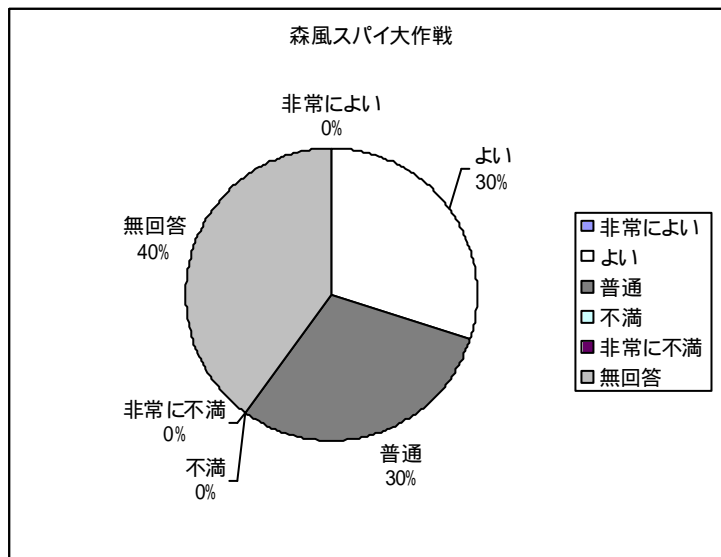
b. クッキング 平均 3.9



理由 <よい>

- ・ 皆でその場で作れるレンガ窯の作成と使用を体験できたのは大収穫。
- ・ 楽しく体験できた

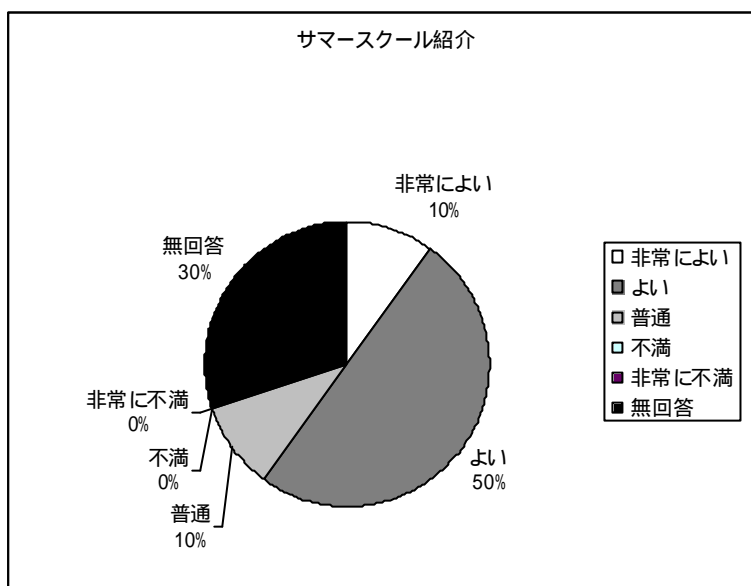
c. 森風スパイ大作戦 平均 3.5



理由 <よい>

- ・ 現代の子供達にスッと受け入れられるだろうストーリーの展開に目からうろこの感。このような子供達に分かりやすく気付きを与えるプレゼンテーションプログラムが用意できたらいいのと思った

d. サマースクール紹介 平均 4



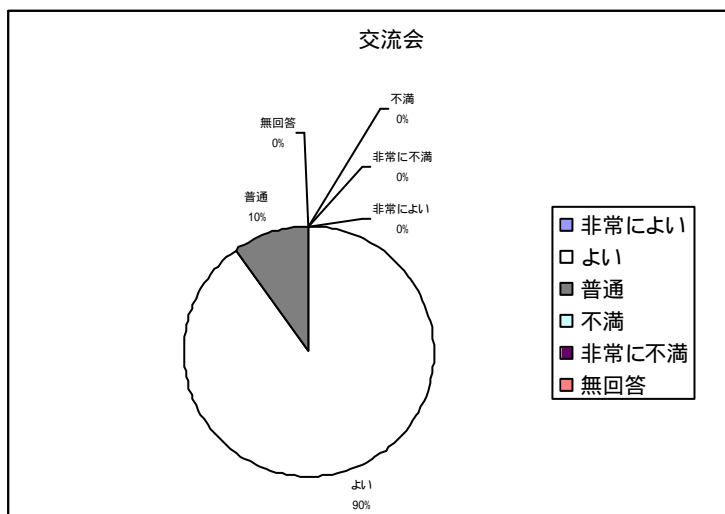
理由 <非常によい>

- ・ 子供たちの持つ能力の無限さ、それを引き出す専門家とスタッフの子供たちへの接し方、力量にとても感動した。

<よい>

- ・ 子供達に対する私達の接し方など参考になるところが多かったと思います。

e. 交流会 平均 3.9



理由

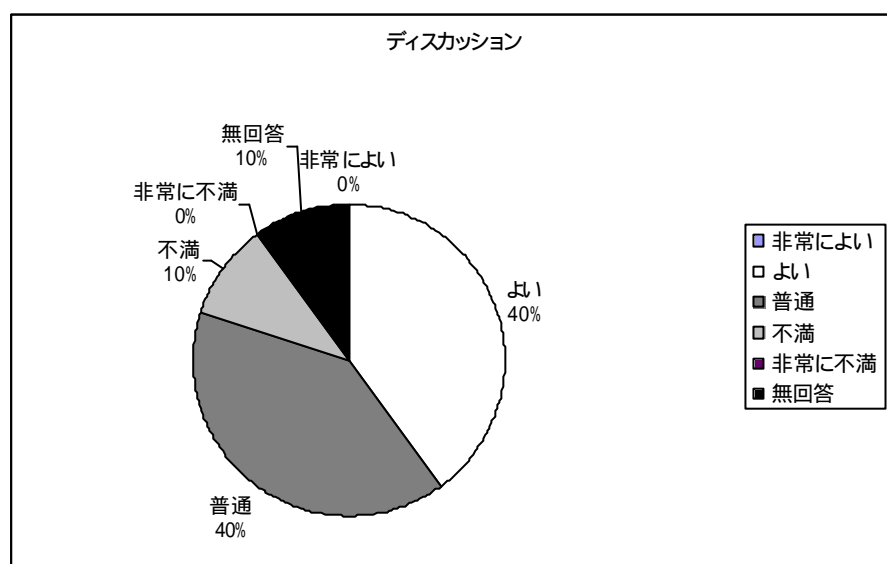
< よい >

- ・ 他県の人達の考え方が分かりました。時間が少し足りなかったです。
- ・ 不満・不安・楽しいことなどもっと意見を聞きたかった

< 普通 >

- ・ 日頃の活動で抱えている問題や状況等について森風のスタッフや青森の推進員と、もっと突っ込んだ交流ができたなら有意義だったと思う。

f. ディスカッション 平均 3.3



理由 < よい >

- ・ もっと話し合いが欲しかった。

< 普通 >

- ・ 自分の能力不足でとまどいました。

< やや不満 >

- ・ ディスカッションの時間が少なかった。グループでの話し合いの時間をとるなり研修内容の共有化の時間がもっと必要だと感じた。各自言いつばなしで終わった感じ。

< 3 > 事前の疑問や悩みは解決されましたか？ご意見をお聞かせ下さい。

- ・ 原点に帰るという意味では大変役に立ちました。
- ・ 森林には木(樹木)や草が生活をしています それぞれの特徴を面白く参考になることなど研修の中で説明があるのではと思っていました。少し残念に思いました。森林

(自然)に対し好奇心を持てるような研修があればと思っています。

- ・ 葛巻町の自然エネルギー施設も見学できるのかと勝手にカン違いしていました。その部分があっても良かったのでは・・・。
- ・ 子供達に接する方法、プログラムの組立等で、多くのアイデアが得られて良かった。しかし、それ以前の子供たちとどのような接点を作るか(テーマもふくめて)という問題は残ったままである。
- ・ 今の小学生、その親に教えてやるのは我々でないかと自責の念を感じた。勇気を持って取り組もう。
- ・ 人に伝える難しさを再度認識、又体験出来説得力が増した。

< 4 > 研修を通してお気づきの点、ご意見、ご要望をお聞かせ下さい。

- ・ 大変有意義な研修でした。年2回くらいはこういう体験をしてみたいです。
- ・ (1)活動には賛成します。しかし衛生面に疑問があると思いました。(2)研修を受けるまでこの学校について知識(情報)が不足していましたもう少し詳しい情報があればと思いました。
- ・ 楽しい研修でした。今後も体験を通した研修を是非してもらいたいと思います。
- ・ 「森と風のがっこう」のこの町での循環型生活はわかったが、都市生活で同様の循環型生活はできない。この閉鎖されたところでのセミナーは効果的。ただ、都会に戻ったとき、ここの雰囲気で盛り上がったセミナーの内容をどのように活かしていくかが難しいところかもしれないと感じました。
- ・ 実際に導入するにはどんな工夫がいるのか、プログラムを絞って体験し、突っ込んだディスカッションをするという流れが欲しかった。
- ・ 防止活動推進員として5年目で他県の仲間と交流し大変意義があったと思います。今回のイベントに参加出来よかったと思います。ありがとう。

8. レポート

前項のアンケートと共に「研修で得たこと」「今後の活動でどう活かすか」の2つの観点からのレポートを実施した。以下は、各参加者のレポートからの抜粋である。

< 研修で得たこと >

- ・ 循環型の生活を体験したこと。その循環のサイクルが目に見え、自分たちの生活の中におさまっているので、「循環」が実感できたこと。
- ・ 自分たちが使用し、食器を洗った水が陶管浄化によって地中にしみ込み、野菜を育てているというシステムになっていることを知れば、汚れた水を大量に流すわけにはいかないと思い至る。そこで、食器に残っている汚れはふき取る、合成洗剤は使わないなどのことが自然とできるようになる。

- ・ 「知識だけではない、やってみればわかる」の実践。
- ・ 地域で話しかけていく活動が大切かと思う。改めて自然エネルギーのことを認識し、忘れていた生活の基本を考えさせられた機会でした。循環型の生活環境を将来ある子供たちに伝えていかなければと決意した時でした。
- ・ 本当は子どもたちも今の世の中だからこそ記録の中の体験をしたいのではと思いました。私達の活動の中で子供達に記録の中の体験をさせてやることは出来ないものか？こういう時代だからこそ自然のすばらしさ、大切さと現代の便利さを知る事で次世代に生きていくための知恵が生まれたらすばらしいと思います。まず安心して自然の中で思い切り遊ばせてやりたい。
- ・ 持続可能な循環型生活の作り方と自然エネルギーの学習事例を学んだ。
- ・ パーマカルチャーや自然エネルギーの作り方といった本での知識が決して敷居の高いものではなく、自分たちの暮らしにも実現可能だということを目の当たりにしたことは本当に有意義であった。
- ・ 今後は自然エネルギーの活用について話ができるように進化したことが大変良かった。
- ・ 「足元にある資源を生かす」ことなどここで考えさせられた「生き方」はどこに行っても基本だと思います。
- ・ 「過去に学んで未来に伝える」という姿は大切だと思うし二酸化炭素の削減には草の根活動として必要だと思いました。
- ・ 理屈ではなく体験として自然エネルギーについて学びえたことは本当に良かったと思います。
- ・ 義務教育では絶対に学び得ない体験の出来る場として私達の近くにも是非ほしい施設だと感じました。
- ・ 地域にあるエネルギーを利用するという考えながら生活すると足元にある倒木や石、又廃品までが利用でき、エネルギーの使用を抑えることが出来るという基本的な生活を見直すことに繋がると感じました。
- ・ 自然エネルギーを使用した温暖化防止活動もあることを学びました。

<今後の活動でどう活かすか>

- ・ 活動の舞台を自分たちでどう作っていくか、どう関わっていくかにかかっているかと思う。
- ・ 地球温暖化体験ゲームはすぐにでも活用できそう。一生懸命になってしまうのは大人も子どもも同じと感じました。これをヒントに体を動かし、楽しみながらできるツールを考えていくことができるのではと思っています。
- ・ 森の中で採取したもので料理を作ってみるとか、食材だけでなく燃料（自作の竹炭）や食器（木の葉など）や箸（竹を削って）など応用できそうです。

- ・ フィールドはたくさんある。あとは自然エネルギーそして CO2 の関連等を付則して教えてやりたい。「泉ヶ岳自然塾」の場所であると「森と風のがっこう」に近い体験活動は可能なのかと思っています。「川崎町」か「泉ヶ岳」どちらかで行動を起こしたい。
- ・ レンガ窯の利用、燻製作り、地球温暖化体験ゲームなどは機会があったらすぐにでも取り入れてみたいと思う。
- ・ 自然は素晴らしい教材だと気付かせるには「ものづくり(おもちゃ・遊びのツール)」を体験させることが大事と思う。
- ・ 温暖化ゲームは環境教育を始める 4 年生には理解が難しいかもしれませんが、上級生や大人対象にしたときは、温暖化を楽しみながら理解できる遊びで、いろいろ応用できそうだなと感じました。
- ・ みんなでワイワイ楽しく地球にやさしい生活を心がける活動をしたいと考えます。
- ・ 森林部としてはグリーンウッドワークを活用してゆきたい。

10. 07MELON エコプロジェクト「杜のともしびL I V E」の実施

1. 日時：12月12日(金) 19:00~21:00 場所：Zepp Sendai

2. チケット販売数

| | |
|-------------|-------|
| 一般発売 | 90 枚 |
| 事務局・実行委員手売り | 61 枚 |
| 当日窓口販売 | 27 枚 |
| 計 | 178 枚 |



3. 実行委員 8 名

企画・準備のための実行委員会を計 5 回開催。事前準備作業もお手伝いいただいた。
一ノ瀬博氏、伊藤奈津子氏、金井悠氏、古賀祥子氏、小林結子氏、佐藤真悟氏、高橋利嘉氏、森田圭祐氏

4. 当日ボランティア総数 29 名

5. 来場者数 156 名(半券カウント 151 名 + GIP5 名)

6. 08MELON エコプロジェクト『杜のともしび LIVE』のエコな点

(1) 会場はグリーン電力の Zepp Sendai

(2) 100 万人のキャンドルナイトとの連動

ウェディングキャンドルをリメイクしたキャンドルプレゼント

ステージでベジタブルオイルキャンドルと空き缶を使った演出
会場外でウェディングキャンドルを利用した演出

- (3) リユース食器の導入
- (4) エコステーションの設置
- (5) エコグッズの展示
- (6) エコメッセージの掲示
ドアに絵本「あなたが世界を変える日」のコピーを掲示
トイレにエコメッセージ設置
- (7) 紙管シャープペンプレゼント
- (8) 紙芝居「ハチドリの一滴」上映
- (9) 裏方で自然食レストランとオーガニック food の店「おひさまや」のケータリング
夕食

7. 広報関連報告

- (1) ポスター・ポストカード配布実績

B2 ポスター【40 枚】

- 1) 地下鉄イベントボード (11/26 ~ 12/2 掲示) 30 枚
- 2) 12/7 環境フォーラムせんだい 1 枚
- 3) 当日会場掲示 9 枚

ポストカード【約 8,000 枚】

- 1) カフェ・ショップに設置 (50 カ所) 3,000 枚
- 2) 施設関連 (公共施設・ZeppSendai) 2,500 枚
- 3) イベント 350 枚
- 4) 対個人配布 910 枚
- 5) その他 1,240 枚 (日専連、荒岩本店など)

- (2) マスコミ

100 万人のキャンドルナイト公式 HP イベント紹介 (11/7 掲載)
ベリーマガジン 12 月号
リビング仙台 12/4 号
Web-Site 仙台ウォーカー (12/5 掲載)
読売新聞 NPO 支援欄にボラ募集 (12 月上旬)

8. 振り返り

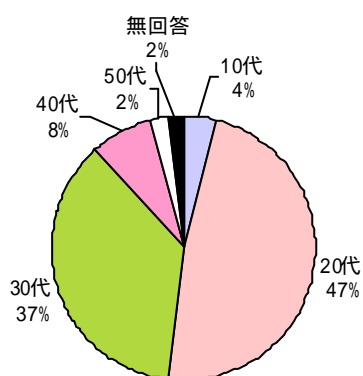
- 手前みそではあるが、内容的には素晴らしいものであったと思う。会場で合った知人からは、みな絶賛の言葉をいただいた。

- アーティストが環境イベントであることを理解してくれており、関連した話をしようという意図が随所に感じられた。
 - キャンドルの演出やロビーでの展示も概ね好評であった。
 - 上記内容から“環境について考えてもらうきっかけづくり”という目的は果たしていると思われる。
 - また、準備段階から多くのボランティアに支えられ連携してこのイベントを作ったという意味で、活動としての意義は大きい。
 - チケット販売枚数 170 枚、来場者数 156 名。販売枚数と来場者数のギャップ 14 は平日開催でもあり仕方のないところか。(昨年は販売数 - 来場者数 = 34)
 - 毎年、日程・アーティスト・演出などが違うので単純比較はできず、販売数だけが全てではないが、ZEPP を会場にしてから一昨年 274 枚、昨年 252 枚、今年 170 枚と減少傾向にあり、これは残念な結果である。
 - 今年について考えられる販売減少原因
 - 予算の減少(呼べるアーティストに影響?)
 - 期中の担当者変更による混乱(これは不可抗力であり決して誰も責めるつもりはないが、結果として影響があったことは事実である。)
 - 上記 に付随してアーティストが今までの 3 組から 2 組に減った。
 - 上記 に付随してアーティスト選考・広報が少し遅れた。
- もし が直接原因であったとすれば、その要因となった は仕方のないところである。
- 来期の詳細については未定だが、上記内容をふまえ、検討していきたい。

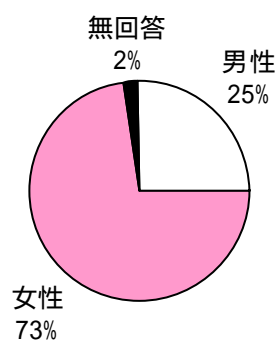
08MELON エコプロジェクト『杜のともしび LIVE』アンケート結果

回答数 / 52 名

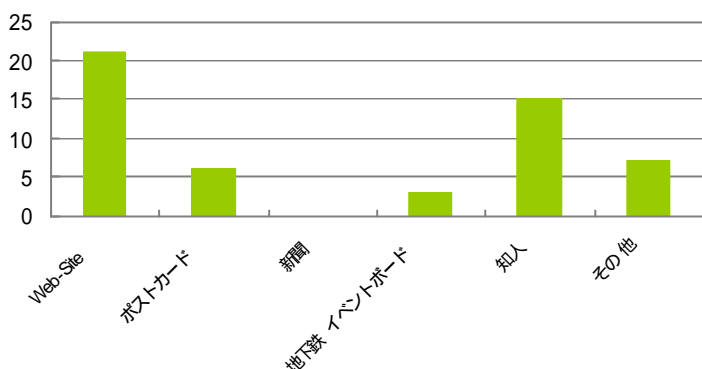
1.年代



2.性別



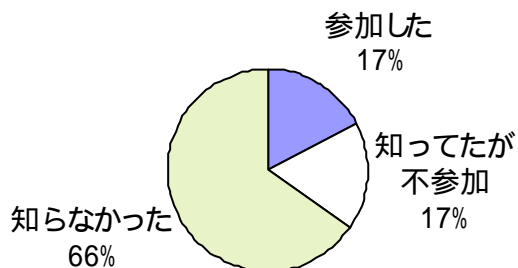
3. 何で知ったか



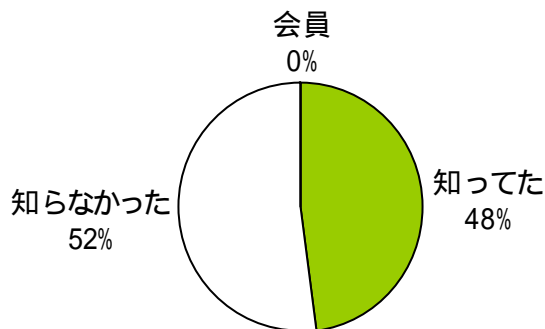
- Akeboshi 8
- 羊毛とおはな 2
- 100万人のキャンドルナイト 1
- MELON 8
- RNECS 2

その他 / FM、Zepp Sendai、カフェ、コンビニポスター、ショップ、mixi、昨年の LIVE に参加して今年もあると思った、公共施設

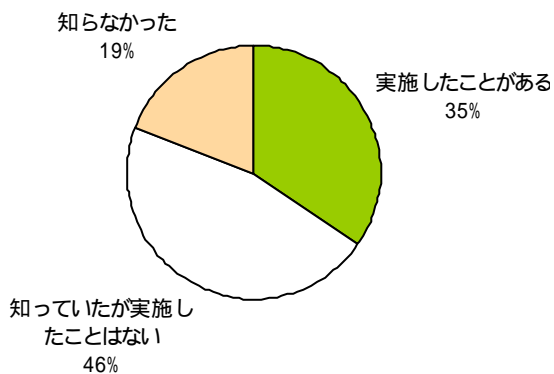
4. 昨年の杜のともしび LIVE を知っていたか



5. MELON を知っていたか



6. 100万人のキャンドルナイトを知っていたか



7. 印象に残ったステージ演出、展示は？

ステージのキャンドル演出 (14)

- ・ ステージに出てくる時にキャンドルを持って登場したところがすてき
- ・ 空き缶とは思えないステキなキャンドル
- ・ ロウソクの光がとてもきれいでした。エコについて考える機会になりました

そらべあ (3)

リユースカップ (1)

風力発電ということを知って(2)

会場内展示(3)

- ・ トイレの中にまでエコをうたう掲示があったのがすばらしいと思いました
- ・ 鍋の帽子の展示、展示のろうそく

その他

- ・ アーティストの選定がすばらしく主催者のセンスを感じました
- ・ ミツバチとお花のお話はしみじみ感じるものがありました。
- ・ 演奏中の映像
- ・ この広い空間に余計なものがなく、ゆったりとした時間があって心地よかった

8. 本日のライブはどうでしたか？

- ・ アンコールがほしかった(3)
- ・ とてもゆったり楽しめました(6)
- ・ 癒されました(2)
- ・ アーティストさんたちの歌とメッセージ、会場を包む空気感がステキでした。
- ・ 羊毛とおはなさんも Akeboshi さんもアコースティックできけて本当によかった！
- ・ 最高でした！私もできることからがんばろう。映像を見て、こんなにキレイな地球をなくしたくないと思いました。やさしいキモチになれました。

9. 全体を通して

- ・ 少し寒かった(3)
- ・ エコがんばります！(4)
とても良かったです。毛布にくるまれているような気分になれました。明日から少しだけでもエコがんばってみたいと思える内容でした。
- ・ 自分ができることから少しずつ行動していきます。(3)
- ・ 落ち着いた雰囲気がゆーっくりした空間を作っていて良かった。
- ・ 次回も参加したい(3)
- ・ 今後も続けてください(3)
- ・ ボランティアのみなさんおつかれさまです。手作り感満載のとてもいいライブでした。
- ・ アットホームなかんじで良かったです。が、いまいちステージとエコプロがむすびつかない気もした。出演者の楽曲がやわらかくエコっぽいということでしょうか？
- ・ 今回の企画の目的が良く見えなかった。LIVE は音楽をたのしむものだが、その他は...？

11. 評価および考察

| 項目 | ねらい | 評価 | 考察 |
|------------|--|---|---|
| 地域イベント出展 | 環境に関心の無い層にも広報する。 | マイバッグペイントは特に子ども達から好評で、それに伴い配布物や展示によって保護者への普及啓発活動を行う事ができた。また、クイズも好評であった。 | マイバッグペイントは依然として集客力があるが、世間の状況を鑑みると新しい参加型企画の考案は急務であると思われる。また、クイズは必要物やマニュアルを整備し、次年度に活用したい。 |
| 環境学習 | 数多くの学校へ出前講座を行う事により、子供の時期から温暖化問題を認識させる。 | 前年度を大きく上回る依頼件数があり、広報の成果と温暖化に関する関心の高まりが顕著に見られる。 | 講師として派遣できる人材の確保が急務であると思われる。また、アンケートをとるなど講演の効果を測る体制を充実させたい。 |
| 温暖化防止バスツアー | 県内外の先進的事例を学び宮城県内に広く紹介し、低炭素社会を考えるきっかけとする。 | 研修場所の自然環境、研修内容ともに参加者にとって大きな刺激となった。プログラムの応用が困難な点もあるため、工夫が必要である。 | 参加者に目的を明確に理解させる事、及び研修後の実践を視野に入れて長期的にプログラムを組むことが必要であると思われる。 |
| 温暖化防止市民講座 | 温暖化防止講座を開催する事により、最新の情報を一般に広報する。 | 毎回参加者からの評判は良く、入りやすい切り口から温暖化について考える点では非常に効果がある。 | 一回の開催でより多くの人数を対象とできるよう、年度始めに学校側と交渉する事が必要と思われる。 |
| 温暖化防止コンサート | 普段環境問題に関心が無い層にも音楽を通じて啓発を行い、幅広く温暖化防止につながる新しいライフスタイルについて実践するきっかけとする。 | | |

12. 来年度に残された課題と評価

1. 地域イベント

地域イベントでは、まず現在所有している環境教育教材（手回し発電機など）の意味を参加者に分かりやすく説明する事が課題として挙げられる。展示物の説明（使い方、意味）を簡潔に表示したパネルを作成する事が有用と思われる。また、興味を引きやすい展示の工夫が必要である。例として、使用するパネルの取捨選択、配置方法など、各イベント毎に考える必要がある。さらに新たな参加型企画を考案すると共に、今年度新たな試みとして行なったクイズを活用できるよう、必要物とマニュアルの整備をすることが有用と思われる。

2. 温暖化防止教育

今年度は昨年度を大きく上回る環境学習の依頼件数があったが、これに伴い派遣できる講師の育成と確保が急務である。推進員と連携し、質の高い環境学習の場を提供したい。今年度新たに「未来は変えられる」という教材を購入し、実施したところ、児童・生徒の反応が良く、温暖化の現状を知り、温暖化防止対策を行動に移すことを促進するツールとしては非常に効果が高い。しかしながら、推進員への周知が徹底していないため、もしくは簡単に使用できるものではないため（実演方法の難しさではなく、スペースが必要な事と使用物が多いため）か、使用の頻度は他のグッズに比べて少ない。センターが貸し出しをしているグッズの広報も併せて、来年度はさらに活用できるよう尽力したい。

学校における知名度のある講師を招いての講演は参加者からの評価も高く、来年度も引き続き実施したい。その際には、一回の講演でより多くの児童・生徒に参加してもらえよう、学校側との早い段階での交渉が必要と思われる。

今年度依頼のあった学校を中心に来年度に広報を行い、学校での環境学習を定着させていく事も一考に価すると考える。

3. 温暖化防止バスツアー

今年度初めての試みであり、課題は多く残った。

まず、目的を理解させる事である。参加者のほとんどがこれまでに経験のないような大自然に恵まれた場所での研修であり、ともすれば旅行気分で終わりがねない。今回の研修ではディスカッションを取り入れ、今後活かすことを意識するよう配慮したが、次年度は広報段階での目的の意識付けを徹底し、さらにディスカッションの時間を多く設け、体験するだけでなく自分で考え、次の行動につなげるという視点を強くしたい。

また、今年度は研修を受けた後にプログラムを実施する機会がなかった。そこで来年度

は、研修後の実践を視野に入れ、長期的な視点で研修の設定を行いたい。また、研修内容に加えて実践内容を推進員研修で発表し、他の推進員にもフィードバックにも波及するよう努めたい。

4.市民講座

市町村と連携しての市民講座の開催は、集客度の高さと共に、地方において温暖化についての大型普及啓発活動ができるという点からも非常に有用である。センターや推進員によるブース出展と共に、共催もしくは協力として講師紹介、金銭面他での協力をすることで、県内隈なく普及啓発活動を行えるよう、尽力したい。

5.杜のともしびライブ

内容は前年同様高い評価を得ているものの、来場者が減少傾向にある。今年度は広報時期の遅れが影響した事も要因の一つとして考えられるので、来年度は広報に注力する事で来場者の減少に歯止めをかける事が課題となる。